

## 文化 批評と表現

## 雑誌を読む

1 月

(第3種郵便物認可)

毎日新聞 (夕刊)

岸は、△敗戦は敗戦として受け止めながら、アメリカと正面からつきあおうとした。それが

田は高く評価する。△岸信介だと、福

## 「昭和の妖怪」の合理性

だが△小泉さんが辞めればそれで終わるといふほど簡単なものではない。△(亀井)。小泉首相の代わりがないという国民のあきらめこそ、政治の衰弱の正体なのだ。

## &lt;私のお勧め&gt;

- ①連載・悪と徳と——岸信介と未完の日本(福田和也)
- ②内閣打倒の雄叫びを挙げよ(亀井静香)
- ③官僚支配の復権(加藤寛、堺屋太一、櫻井よしこ)

＝正論2月号～  
＝発言者2月号  
＝諸君!2月号

橋爪 大三郎 (東京工業大学教授・社会学)

石原莞爾の連戦評伝を去年完結した福田和也が、岸信介を回顧する新しい連載を始めた。大きな構想で期待がもてる。

六〇年の日米安保

条約改定は、日米関

係をいっそう安定さ

せ、経済的繁栄を約束するものだった。

だが当時は、△復興

が予想以上の早さで

進み、日本人の心の

底に、忘れたはずの

憤りと恨みが、燃え

焦がれた。時期でも

あった。そうした反

米・反安保の運動に

△合理性を掲げて立

ちはだかっていた。△

のが岸信介だと、福

田は高く評価する。

△敗戦は敗戦とし

て受け止めながら、

アメリカと正面から

三月に北京で全国人民代表大会が開かれた。朱鎔基首相は、温家宝首相にバトンタッチ、胡錦濤時代が正式にスタートした。新指導部の課題は何か。

「三農」(農業、農村、農民)問題が深刻となっている。清水美和論文が問題の輪郭を紹介する。

△農業従事者は一億人もいれば十分とされ、農民二億五千万人前後が過剰な労働力。△農産物の価格が過去数年引き下げられ、農民の所得が落ち込んだ。WTOに加盟したので、値上げは困難だ。出稼ぎで都市に出て、都市戸籍を取得する道は閉ざされ、差別を受けている。一月の全国農村工作

## 中国新指導部の課題とは

会議で温副首相(当時)は、△農業の余剰労働力を大量に移動させる考えをのべたという。三農問題ひとつをとっても、中国が直面する困難は日本の比ではない。北京や上海の発展に目を奪われないで、中国の内政にうんと踏み込んだ分析がいま必要なのだと思う。

『中央公論』の日台断交三〇周年特集では田中首相の蔣介石総統宛て親書が注目である。『諸君!』の稲田朋美論文は、中国側にどこまで通用する論理かわからないが、△日本の政治家や外交官は国益に関わる国際問題に正論をいおうとはしないので、誤った認識にとどまらず抗議が続いている、との指摘に賛成する。

## &lt;私のお勧め&gt;

- ①中国農村知られざる惨状(清水美和)
- ②蔣介石総統宛て田中角栄首相親書
- ③中国「国際交流協会」で「靖國」を弁護する(稲田朋美)

＝文芸春秋4月号  
＝中央公論4月号  
＝諸君!4月号

毎日新聞 (夕刊)

## 文化 批評と表現

## 雑誌を読む

3 月

## 文化 批評と表現

2003年(平成15年)2月26日(水曜日)

2版

8

## 首相の「一言政治」

橋爪 大三郎 (東京工業大学教授・社会学)

「ワンフレーズ・ポリテックス(一言政治)」。最近、小泉首相の政治スタイルがこう形容されるようになった。これでいいのかと疑問の声が上がっている。

先の衆議院予算委員会での民主党の菅代表が、八月十五日の靖国参拜、国債発行額を三十兆円以下に抑制する、ペイオフの解禁といった小泉政権の主要公約が、ことごとく破られている…と追及…それについて、小泉総理は…この程度の約束を守らないことは大したことではない…と放言してしまいました(福田和也「歴代総理の言語能力探点」文芸春秋3月号)。従来なら即審議ストップだが、これだけ重大な「失言」があっても、審議には…支障がな

かった(赤坂太郎「ポスト小泉野中広務の意中の男」同)。政治家の言葉が重みを失った証拠である。

渡邊恒雄は、小泉首相は「改革なくして成長なし」「自民党をぶっ壊す」といった「叫喚的スローガン」を連発しているだけ

## 新システムの構築急げ

見えぬ利益分配の代案  
活路は解散、自民離党

渡邊 恒雄氏



飯尾 潤氏

返す」と分析、この人は、首相はおろか政治家にしてはいけない人です」と手厳しい。

公約も守らない、経済も回復しない、めばしい実績もない。ではなぜ小泉政権は倒れないのか。まず野党に決め手がない。▲議

の実権を握っているから、安心して、実現できない改革のスローガンを叫ぶことができる。両者は持ちつ持たれつだとも言える。

政治評論家の早坂茂三によると▲抵抗勢力という発想は戦後日本政治の革命だった。もともと小泉

田原総一郎は、歴代内閣のうち▲橋本内閣の終わりと、権力の側に日本をどうするという展望もノウハウも欠けていることがはっきりしてきた。…批判するからには、代案を考えなければ」と感じることになったという(「私はジャーナリストから外れている」)。小泉政権は、こうして迷走してきた自民党歴代政権の末期的状況である。小泉首相の矛盾は、自民党そのものの抱えるジレンマにはかならない。

で、▲ワイドショー全盛時代のテレビ政治を武器とする、日本で最初の成功した劇場型政治家となった」と結論する。いっぽう高村は、▲小泉…語法の基本的な特徴は、話を非常に単純化して、断定的に語り、同じことを何度も繰り返

## 雑誌を読む

2月

## ◆小泉総理に友情をもって直言す (渡邊恒雄)

—文芸春秋3月号

叫喚的スローガンの連発。経済を守るため君子豹変を  
◆小泉純一郎 最も危険な宰相 (高村薫、国正武重)

—同

思いつき、準備不足、勇み足。自民もすでに自壊作用  
◆「国会空洞化」の危機をどう克服するか (飯尾潤)

—中央公論3月号

議員は立場を明確に。選挙の時だけ小泉人気に頼るな  
◆私はジャーナリストから外れている (田原総一郎)

—論座3月号

プロセスの透明化が大事。危機意識から政治に期待も

院内閣制の国会は…与野党対決を機軸とするため、小泉内閣のように与党内に重大な対立を抱えていると、そうした政権内対立のほうに心が集中し、国会への関心は薄れてしまう。菅代表が張り切った小泉首相を追いつめても、気がつけば与党内「抵抗勢力」と同じ立場になってしまふ。かと言って、▲小泉首相を脇に置いて、小泉首相と対立する与党議員を批判するのも難しい(飯尾潤)。

自民党政権なのに、自民党を批判して人気の小泉首相が、野党のお株を奪っているのだ。

第二に、与党内の「抵抗勢力」も、つぎの選挙を考えると、小泉首相を辞めさせにくい。いっぽう小泉首相は、「抵抗勢力」が政治

は、自民党の…異端だからね。経済や外交の知識や経験がまったくない。でも首相になれたのは、▲鼻が滅法きくから。…無智は強し。でももしない大法螺を吹いて世間を誑し込んだ(早坂・二宮清純「スポーツマインドで見ると小泉政治 司令塔の条件」諸君!3月号)。これが「ワンフレーズ・ポリテックス」の中身だとしてたらいものだ。

小泉政権の不思議な特徴は、小泉首相個人の資質によるというより、政治状況の変化にもとづくものだと思う。利益分配によって国民の支持をとりつける自民党政権がもう通用しなくなったのに、それに代わるシステムが見つからない。そこに問題の根本がある。

田原総一郎は、歴代内閣のうち▲橋本内閣の終わりと、権力の側に日本をどうするという展望もノウハウも欠けていることがはっきりしてきた。…批判するからには、代案を考えなければ」と感じることになったという(「私はジャーナリストから外れている」)。小泉政権は、こうして迷走してきた自民党歴代政権の末期的状況である。小泉首相の矛盾は、自民党そのものの抱えるジレンマにはかならない。

では、小泉政権の行く末、ポスト小泉政局は、どうなるのか。

田原は、▲小泉さんの構造改革は政治を不透明にしている構造をぶち壊すことです。…期待している」という。いっぽう渡邊は、「構造改革」の概念があいまいで▲旧来の行政改革の延長に過ぎなかったのだが、…金融システムの構造改革に踏み込むことで大混乱に直面したと批判する。世論は両者の間でまだ揺れている。どうせ「ワンフレーズ・ポリテックス」だと、世論が見限ってしまえば、「抵抗勢力」にとつて小泉首相の利用価値はなくなり、政権もあっさり倒れるだろう。

そうならないため、小泉首相に残された道は、解散に訴え、自民党を割って出ることである。「ワンフレーズ」のスローガンでも政策「丸投げ」でもない、具体的で現実的な政策プランを国民に示すことだ。いまの小泉首相にはハードルが高すぎるかもしれない。

小泉首相が、解散なしの総裁選再選をめざすようだと、ポスト小泉政権は、意外に近いかもしれない。さらに矛盾を深めた自民党政権の登場となる。国民が納得できる政治システムを構築できる日まで、困難は続きそうだ。

2003-7-(4)

2003年(平成15年)4月30日(水曜日)

2版

6

## 文化 批評と表現

## 雑誌を読む

4 月

(第3種郵便物認可)

毎日新聞 (夕刊)

日本初の偵察衛星二基が、三月二八日に打ち上げられ、軌道に乗った。独自の情報収集・分析がスタートする。

偵察衛星の解像度は、既存の商業衛星並み。無用だとの声がある。けれども、日本が特定の場所の写真撮影を依頼すると、外交で何をしようとしているのかの推測が付く。外交の独自性を守るためには、自前の衛星をもつ必要がある(江畑謙介)。

偵察衛星の情報を活用するには、日本が関心をもつ場所の映像を撮影しておき、データベースをつくる(江畑)。日本がこれまで不得意にしてきた分野だ。衛星を打ち上げ

## これでいいのか情報戦略

この点、山本論文は興味深い。まず、アメリカが占領下の日本に情報網を構築しようとしていたこと。第二に、それを記録する公文書が保存・公開されていること。民主国家の情報戦略の基本をみる思いだ。

## &lt;私のお勧め&gt;

- ①「日の丸」偵察衛星の実力(江畑謙介)
- ②特集 情報はだれのものか(村山治ほか)
- ③占領下CIA対日工作の協力者(山本武利)

=Voice 5月号  
=論座 5月号  
=文芸春秋 5月号

橋爪 大三郎(東京工業大学教授・社会学)

2003-7-(6)

2003年(平成15年)6月19日(木曜日)

2版

8

毎日新聞 (夕刊)

## 文化 批評と表現

## 雑誌を読む

6 月

SARSが拡大したのは中国の情報隠しのせいだと、国際的な非難が集まった。胡錦濤主席は四月二十日、衛生部長、北京市長を更迭した。

衛生部長の張文康は、江沢民の御殿医。北京市長の孟学農は、胡錦濤人脈の若手ホープ。張文康を切るために、仲間の孟学農を泣いて切った。上村論文は背後の権力学を解説する。

解放軍の病院が悪役となり、軍のトップ・江沢民はダメージを受けた。上海に逃げ出したと噂も立てられた。いっぽう胡錦濤、温家宝は、政権基盤を固めるチャンスと、情報公開や指揮系統の統一を打ち出した。胡主席はマス

## チャイナ・リスクに備える

クナして広東省の医療センターを視察。温首相は閉鎖中の大学を訪れた。江沢民を意識したパフォーマンスタ。

△SARS騒動は「チャイナ・リスクの時代」の始まりで、中国の抱える問題がリスクとして世界中に広がる(中西論文)。好調な中国経済の弱点も見えてきた。アメリカはライバル中国への圧力を強め、中国はそれをかわそうと、対日融和路線に転じつつある。こんな折、靖国神社に代わる△平和祈念碑の建設を手土産に小泉首相の中国訪問を果たそうという動きがある。と中西氏は批判する。同感だ。むしろ、歴史問題をこれ以上外交の具にするなど釘をさすべきだ。

## &lt;私のお勧め&gt;

- ①江沢民が行方をくらました(上村幸治)
- ②チャイナ・リスクの時代(中西輝政)
- ③SARSが火をつけた 胡錦濤VS.江沢民 暗闘、再び(田中修)

=文芸春秋 7月号  
=Voice 7月号  
=現代 7月号

# イラク戦後世界と日本

橋爪 大三郎 (東京工業大学教授・社会学)

イラク戦争開始から、たった三週間でバグダッドが陥落。倒される独裁者フセインの像に、北朝鮮は衝撃を受けたろう。世界はどう変わりつつあるのか。

△今回の戦争は国連決議の有無...という次元を超えた「正義の戦争」と意味付けできる。...これほど多くの人々をかくも少ない犠牲で...庄政から解放できたからだ(中西論文)。仏独が開戦に反対したため、国連は機能マヒした。アメリカは単独行動を決意し、圧倒的な勝利を収めた。△有史以来はじめて真に世界全体を勢力圏とする大国が現れたのだ(中西論文、岡崎久彦×中西輝政「義務としての戦争」諸君!6月号)。

九・一一以後アメリカは、テロ

支援国家を先制攻撃する戦略に変わった。これは内政干渉で、国際法違反ではないのか。だが、△近代国際法の父・グロティウスは「人道に反する体制、独裁、圧政...は...内政介入しても打倒することは...名誉な行為である」として...奨励している」という

## 通常戦力強化に説得力



福田 和也氏



櫻田 淳氏

(前出対談の中西論文)。安保理決議は必要ないのか。△国連という存在は安全保障上の役割から見ても最悪、最低の組織...。各国は国連...を国益に役立つかぎり...利用し、役立たないとなれば無視しているのが現状(中西論文)

## 北朝鮮にらむ核武装論 展望乏しい反米的論調

対応には二種類あるとする(「世界は決して『ジャングル』にはならない」中央公論6月号)。強国に対抗する「合従」策と、強国と結ぶ「連衡」策だ。そこで、仏独はアメリカに逆らい、イギリスは支えた。△すぐに小泉総理がアメリカ支持を打ち出した姿勢は非常によかった(櫻井論文、中曾根康弘×櫻井よしこ「海洋国家・日本の大戦略」Voice6月号)。

北朝鮮の脅威には日米同盟が大事だから。そして今後、国際社会は国連でなくアメリカ中心に動いていくからだ。

核保有を明言したことで北朝鮮をめぐる状況は一変した。△日本が核攻撃を受ける可能性は、かつてない高水準に上りつつある(

だ。

突出した軍事力のアメリカが、国際社会を仕切るようとしている。福田和也はこのアメリカを△恐怖と暴力で人間を震怖させる怪物(「諸君!6月号」田中明彦は△強大な国家に対して他の国々とする

(福田論文)。対抗上、日本も核武装するしかないのだろうか。北に核開発を断念させるのは容易でない。北朝鮮が学んだイラク戦争の教訓は、通常戦力では米軍に適わないことだろう。虎の子の核を手放すはずがない。

核を無力化しようと先制攻撃を

- ◆国連は日本の敵だ(中西輝政) =Voice6月号 脱国家的な精神構造を生む国連信仰・幻想から脱せよ
- ◆日本「核武装」しかないのか(福田和也) =文芸春秋6月号 米国の「核の傘」は幻。核武装引き受ける責任倫理を
- ◆「日本核武装」は安全保障論議の徒花である(櫻田淳) =中央公論6月号 核は対外政策の「硬直性」招く。トマホーク導入急げ
- ◆「国連と国際」のあいだの「依存と反発」(佐伯啓思、西部邁) =発言者6月号 ホッブズ的価値の錯誤。ネオコン戦略は長続きせず

試みると、ソウルが反撃される。途方もない被害が出るだろう。かと言って、経済制裁を加えようとしても、時間がかかるし、中国が本気にならないと効果は上がらない。打つ手なし、である。

こうして、アメリカはうかつに手が出せない。北朝鮮はいつでも日本を攻撃できる。日本には反撃の能力がない。日本が核攻撃されてもアメリカが核で報復する保証がない。テポドン2が米本土に届く可能性があるからだ。

このように日本が△核武装を拒否する理由は...脆弱になり、むしろ核武装の有効性が強調される...情勢にある(福田論文)。△アメリカの「核の傘」の神話がよいよ鈍びてきた(△)ので△おぞま

しさを引き受ける責任倫理...が必要(△)だとのべる福田和也は、核武装に肯定的である。

これに対し櫻田淳は、核武装論を歪んだ△徒花と断じ、かわりにトマホーク・ミサイルの導入を提案する。△第一の意味は...自前の抑止の体系...によって「自律性」を確保すること...。第二の意味は...対米提携を基軸とする...政治的な表明である。それは△核不拡散条約体制を擁護し、世界の脅威を除去する△世界的な意義をもつ作業△でもあるという。ネオコンの代表格、R・パールも△将来的に日本の安全保障は、報復能力がなければ十分ではないと思われ、より良い選択はミサイル防衛と米国の親密な同盟関係であろう△とのべる(「前世紀の遺物・国連を乗り越える時がきた」中央公論6月号)。

反米ナショナリズム的な保守論客も増えている。西部邁は△自主防衛の...気持が...ないから、アメリカに依存することになり、△北朝鮮(△)ときを脅威と感じるはめになったとする(佐伯×西部対談)。韓国や中国の反米新世代の台頭と、シンクロする現象なのかもしれない。

アメリカは在韓米軍の撤退を検討している。いざ戦争となった場合、米軍の被害が大きすぎるからである。プッシュ政権は本気で、金正日政権を倒す気だ。

現実には、アメリカの軍事行動を支持しなければ、日本の安全は守れない。だが、米軍にお任せではなく、日本もできることをしなければならぬ。私は核武装よりも、通常戦力強化の櫻田提案に説得力を感じる。また、反米的論調は、現実の展望に乏しいと思う。

## 文化 批評と表現

## 雑誌を読む

7 月

(第3種郵便物認可)

毎日新聞 (夕刊)

外務省の田中均審議官を批判する文章が、『文芸春秋』『諸君!』『Voice』に並んだ。北朝鮮の交渉相手ミスターXの正体を秘密にし、交渉記録も残していない。重要な情報を小泉首相に上げないで、平壤宣言にサインさせた。アメリカミシシッピ国務副長官に北朝鮮の体制を保証してほしい。：圧力：といった言葉は使わないでと頼み、怪しい男と評された(児玉論文)。独断専行：北朝鮮寄りの外交姿勢が：厳しい非難を浴びている(山村論文)。外務省は事実上反すると抗議した。外交交渉に秘密はつきものかもしれない。だが

## 迷走続ける対北朝鮮外交

田中氏のケースは、それとも違う。政府首脳や、外務省内部や、アメリカにも十分説明しないで、国交正常化交渉を最優先にした。そのぶん拉致問題に冷淡だった。外交は多角的なものだ。北朝鮮が日本との交渉に動いたのは、ブッシュ政権の強硬姿勢のおかげ。田中氏の手柄ではない。北朝鮮の核が現実の脅威となつたいま、日米が結束して「対話と圧力」で臨むべきである。国交正常化交渉を急ぐ理由などどこにもない。政治家が外交音痴なこと。外務官僚がスクールに分かれ、総合戦略が不在なこと。国会の論戦が低調なこと。そんな土壌がある限り、迷走はまだ続きそうだ。

## &lt;私のお勧め&gt;

- ①「亡国の外交官」田中均の正体(児玉博)
- ②「田中均」研究——その金正日脈と外務省人脈(山村明義)
- ③田中均審議官を解任せよ(蓮池透、西岡力)

＝文芸春秋8月号  
＝諸君!8月号  
＝Voice8月号

橋爪 大三郎 (東京工業大学教授・社会学)

毎日新聞 (夕刊)

## 文化 批評と表現

## 雑誌を読む

9 月

中国の仲介で8月27日、6者協議が実現した。議論は平行線に終わったが、アメリカは中国の努力を高く評価した。中国にとって北朝鮮の核兵器と弾道ミサイル開発は迷惑以外の何ものでもない。米国や日本が弾道ミサイル防衛システム(BMD)の配備計画を進めれば、中国の核戦略にも悪影響を及ぼす。台湾に圧力もかけにくくなる(江畑論文)。中国は近い将来に米国が北朝鮮で起こすであろうことを詳細に検討している。う。攻撃は、北朝鮮の核施設へのピンポイント空爆になるだろう。北朝鮮軍は：動かないの

## 「北の核」に困惑する中国

か(反撃して全面戦争に発展する)のか、中国内部で見方がわかれていく(上村論文)。武力行使は避けられるのか。軍事攻撃は大きなリスクと不確実性を伴う(論座)ことはアメリカもわかっている。双方の主張は、「体制を保障するならば核を放棄してもよい」「核を放棄するならば体制を保障してもよい」と、平行線だが歩み寄りの余地がある。交渉が不調なら、アメリカが軍事攻撃のかわりに、中国と連携して北朝鮮の指導者の追放を目指すシナリオも現実味を帯びてくる(上村論文)。日本も国交正常化交渉は、核で北朝鮮の妥協をひき出す手段と割り切るべきだ。

## &lt;私のお勧め&gt;

- ①「北の核」が中国核戦略を破綻させる(江畑謙介)
  - ②金正日追放 中国がついに下す決断(上村幸治)
  - ③北朝鮮問題に関する六者協議の行方(フォーリン・アフェアーズ・ジャパン)
- ＝諸君!10月号  
＝現代10月号  
＝論座10月号



## 文化 批評と表現

2003年(平成15年)8月21日(木曜日)

2版

8

## 雑誌を読む

8月

## ◆朝鮮半島二度目の核危機(ケネス・キノネス)

—外交フォーラム9月号

現在の状況は94年より危険。相互信頼は過去のものに

## ◆「不安定な均衡」が終わりを告げる時(平岩俊司)

—外交フォーラム9月号

レッドライン越えた攻防。日本に覚悟迫る多国間協議

## ◆日本よ、同盟を拒絶するのか(片岡鉄哉)

—Voice9月号

日米安保体制は解消へ。国務省OBの2人が論文発表

## ◆対日外交から「感情」や「情緒」を排除せよ(時股弘)

—中央公論9月号

歴史問題は取りあえず棚上げ。国益重視の戦略思考を

## 山場の朝鮮半島危機

橋爪 大三郎

(東京工業大学教授・社会学)

数カ月以内に、朝鮮半島の核危機が山場を迎えそうだ。北朝鮮が核保有国になるか、それとも第二の朝鮮戦争が勃発するか(外交フォーラム・キノネス論文)。残された時間は、限られている。アメリカがこのまま様子見を続ければ、北朝鮮は今年中に大規模な核実験を実施するだろう(ケネス・キノネス「北朝鮮 核実験へのカウントダウン」現代9月号)

一〇年前、九四年危機の際は、クリントン政権が直接交渉して、米朝枠組み合意にこぎつけた。この合意は、北朝鮮の核開発によって、紙くすになってしまった。北朝鮮はなぜ核開発にこだわるのか。北朝鮮の核武装は外交

渉用の「カード」ではない。核開発を始めたのはずっと昔だし、開発の仕方にも本格的。だから、どのような体制保証をしても、核を放棄しないだろうし、交渉しても解決は難しいという(武貞秀士「金正日は必ず核武装する」Voice9月号)。

## 流動化する東アジア



ケネス・キノネス氏



時 股弘氏

積極的に仲介に動いている。北朝鮮の核保有が、軍事バランスを著しく崩すことへの懸念があるし、北東アジアの新秩序形成に、建設的役割を果たし、影響力を確保するねらいもある。それを後押しする。米国にも、経

れわれは今後、きわめて難しい対米問題に、立ち向かわねばならなくなる。歴史問題を煮し返すのは、中国の利益にならない。つまり、中日間で敵対することを目指す。第二に、適切な戦略上の相互信頼関係を打ち立てるべき

対日外交修復図る中国  
日本は長期安保構想を

経済制裁をはじめとする次のステップは、中国の協力がなければその効果が限定されたとの判断があるはずだ(平岩論文)。

このことを、喜んでばかりいられない。アッシュ政権の大戦略は「テロとの戦い」に勝つことであり、そのために、朝鮮問題を解決する。この問題に、日本は足手まといであり、解決してしまえば日米安保は存在価値を失う(片岡論文)。半島危機が済んでみたら、日本の安全保障体制が壊れていったという可能性がある。

米中接近、日本用済み、とは逆に、米中対決、日本の役割増大、というシナリオも説得力をもつ。中国が最近、対日外交を修正する兆しがあるのもその証拠だ。△わ

だ。第三は、選択的に戦略的協力を行うべきだ(時論文)。こうした最近の論調は、胡錦濤政権が米国中心に傾き過ぎた外交をただして日本や韓国、インドなど周辺国との協力関係を重視し発展させている(清水美和「金正日は怯える胡錦濤の『不快』と『圧力』」諸君!9月号)ことと関係がありそう。

米韓関係も、ぎくしゃくしている。△韓国は、北朝鮮との和解を追求し、平壤への経済協力や経済支援を続ける意志があることから、北朝鮮のミサイルの攻撃対象になる可能性は日本よりはるかに低い(キノネス論文)。日米韓の足並みの乱れが、北朝鮮につけ込まれる可能性がある。

こうして、六者協議の準備が進んでいる。拉致問題は、日本と北朝鮮の二者協議で議論する(六者協議では話題にするだけ)ことになった。適切な判断だと思ふ。拉致問題は、非道な人権問題だが、核危機の解決に比べれば優先度が下がる。六者協議の前提は少なくともおいたほうがよい。日本が、拉致問題の解決と引きかえの経済援助はしないとの原則を貫けば、六者協議に悪影響はない。北朝鮮が焦って、拉致問題で独自に譲歩してくる可能性もある。

北朝鮮をやっと交渉のテーブルにつかせ、△協議が開催されたとしても、北朝鮮の姿勢に根本的な変化がなければ朝鮮半島の危機的状況は回避されえない(平岩論文)と覚悟すべきだ。協議が不調に終わり、経済制裁が不可避になって、一気に戦争に向かって進んでいくという展開もありうる。

今回の核危機は、日米安保条約が想定しなかった事態だ。日米同盟の真価が問われている。ポスト冷戦、とりわけ九一一以後の流動的で不確定な状況のなかで、日本はどのように、長期的な安全保障を構想していけばよいのか。

朝鮮半島危機で、ともかく共同歩調をとっている日米中韓だが、解決した後は、鋭く対立する可能性もはらんでいる。

私の考えでは、米中は「戦略的パートナー」より「戦略的競争相手」となっていくだろう。共産党の二党支配や中国の価値観、伝統文化は、アメリカと違いすぎる。だからこそ日本は、アメリカの重要な「戦略的パートナー」となりうる。今回の危機で、日本が見事な政治的指導力や危機管理能力を示し、アメリカなど国際社会の信頼を勝ち取ることが大切だ。

橋爪大三郎氏



■マニフェスト

橋爪大三郎氏 今回は珍しく政策が争点になっている選挙らしい選挙だと思ふ。小選挙区制になって随分たが、やっと自民党の対抗勢力が民主主義になりそうというところまで振り返ると、1990年ごろから国際環境や社会が激変してきた。安全保障の新しい枠組みが必要になり、

衆院選を語る

「政権選択」を最大の焦点とする衆院選の公示が28日に迫った。各党がマニフェスト(政権公約)を発表し、年金や高速道路、イラクへの自衛隊派遣などに有権者の関心も高まっている。10月の「雑誌を読む」は、総選挙をテーマに橋爪大三郎・東京工業大学教授(社会学)▽御厨貴・東大教授(日本政治史)▽精神科医の斎藤環氏に論じてもらった。

注目の3点

橋爪大三郎氏

大きく簡潔に日本の政治を変えるべきだ(北岡伸一、田勢康弘) =フォーサイト11月号  
米外交の破綻と道徳的権限の崩壊(ジェームズ・P・ルービン) =論座11月号  
マッカーサー米議会証言録(牛田久美) =正論11月号

御厨 貴氏

民主党政権始動「100日改革プラン」の全容(菅直人) =中央公論11月号  
安倍ショックと民由合併は総選挙に何をもちらすか(飯尾潤) =同  
政治の貧困と社交の衰弱(佐伯啓思) =発言者11月号

斎藤 環氏

野中広務の呪い(福田和也) =Voicell1月号  
「異形の秘書官」飯島勲の高笑い(佐野真一) =文芸春秋11月号  
厳しい競争でリーダーを鍛えよ(野中尚人) =中央公論11月号

斎藤 環氏



見られるように政治の透明度が上がった印象がある。福田和也氏が「Voice」に書いていたが、玄人談義が通用しにくい世界になった。ただ皮肉なことに各党の政策の違いが分かりにくい。問題をクリアにするほど似てくるのは避けられないが、選択の難しさにつながるかもしれない。

橋爪氏 与野党のどちらが攻めているかはっきりしない。総選挙で勝利して内閣改組も済ませ、解散・総選挙に打って出た点では小泉首相が攻めている。しかしマニフェストになる感じがなかった。2大政党制や政権交代という

御厨氏 今度は従来より若い層が投票に行くような気がしている。以前は選挙がイベントになる感じがなかった。2大政党制や政権交代という

改革の底流に環境激変…橋爪氏

細川政権受け継ぐ民主…御厨氏

若年層の投票率上昇か…斎藤氏

雑誌を読む

10月

御厨 貴氏



10年前ならありえなかった。民衆が受けに回っている。マニフェストの焦点の一つは財源だ。コスト負担は平等にのしかかっている。地方より都市。高齢者より若年層。しかもサラリーマンの負担が大きい。この層に訴えるにはイメージの良さが重要なから小泉さんが出てきた。都市部でも自民党はそれなりに健闘す

御厨氏 今度は従来より若い層が投票に行くような気がしている。以前は選挙がイベントになる感じがなかった。2大政党制や政権交代という

斎藤氏 私もし若い層が投票に行く可能性はかなり高いと思う。自民党は選挙のたびに100万ずつ票を減らしているという(新聞記者匿名座談会「Voice」11月号)。

橋爪氏 細川政権は自民党から離脱グループが出たので誕生した。今回は有権者が意識して投票し、政権交代する

日本の将来構想

2大政党下の課題とは

橋爪氏 イラクへの自衛隊派遣の問題だが、首相は9・11事件直後から米国べったりの政策を打ち出した。親米を短命だから、親米で行こうと考えたとされる。日本の国際的位置を考えれば、理由ともあれ親米路線をはっきり

御厨氏 最近の政策決定プロセスで面白いのは審議会の公開の手段がインターネット中心で、テレビの政府広報で

御厨氏 戦前の政友会、民政党時代は、政策に相違がないのに8年間に7回も政権が交代したイメージがある。だから政権は一つの政党が長くやった方がいいという妙な解釈がまかり通ってきた。2大政党制を迎えつつあるいま、この評価も変えないといけないと考えている。

構成・岸 俊光  
写真・岩下幸一郎

文化 批評と表現

雑誌を読む

11月

(第3種郵便物認可)

毎日新聞 (夕刊)

橋爪大三郎 (東京工業大学教授・社会学)

混迷する米のイラク占領

あるはずの大量破壊兵器が見つからない。テロが頻発し、治安は悪化、復興も軌道に乗らない。アメリカはどこを間違えたのか？

ナイ元国防次官補は、△国際政治：は三次元のチェスゲームだと強調する。軍事面でアメリカが優位でも経済は多極化しているし、人びとのつながりは国境がなくなっている。国際協調なしの軍事力では目的を達成できない。強引なイラク戦争が△アルカイダのテロ分子リクルート能力を高めてしまっている、自分で自分の首をしめる結果になった。

△米政権の対イラク政策がいかに場当たり的かを、酒井論文が鋭く指

摘する。国務省が亡命イラク人にせつかく占領政策を提案させたのに、実際には国防総省がイラク人抜きに占領行政を独占した。特に△軍人、党員に対する措置のまずさが、治安悪化の最大原因だという。

こんなイラクに自衛隊を派遣すれば、テロで犠牲が出る。小泉首相が悪いと非難が集まる。悪いのはアルカイダだが、誰もそうは言わない。かと言って派遣をやめれば、日米同盟にひびが入る。いつまでもアメリカが日本を守ってくれると思うのは虫がいい。

同盟国アメリカが不人気で疑問の多い戦争を始めた場合、日本はどこまでつきあうのか。今後続発しそうな難題だ。

＜私のお勧め＞

- ①論争 ブッシュ政権の国家安全保障戦略 (ニール・L・ギングリッジ、ジョセフ・S・ナイ、ローレンス・コープ) = 論座12月号
- ②空回りするアメリカの対イラク占領政策 (酒井啓子) = 世界12月号
- ③米国と日本の選択肢は何か (マイク・モチヅキ、楊大慶、若宮啓文) = 論座12月号

イラク戦争に論議集中

「雑誌を読む」で今年取り上げたムーン記事を振り返ってみる。

(1月) 同盟とイラク攻撃 (2月) 首相の「一言政治」 (3月) 「ブッシュの戦争」の歴史文脈 (4月) イラク戦後と中東問題 (5月) イラク戦後世界と日本 (6月) 国益論の過去と現在 (7月) 小泉構造改革の採点 (8月) 山場の朝鮮半島危機 (9月) 次期総選挙の意義 (10月) 衆院選を語る (11月) 節日のマニフェスト選挙――

イラク戦争と衆院選関連テーマの頻度が高い。衆院選の争点の一つがイラクへの自衛隊派遣だったことを想起しても、米国の一極世界とそこでの日本の進路が最大の関心事だったことがうかがえる。

その中で印象に残ったのは研究者による新しい「理想」の模索だった。

例えば京都大学教授、中西寛著『国際政治とは何か』(中公新書)は、主権国家、国を超えた企業などの国際共同体、世界市民主義という国際政治の位相間の背反を認め、国家を重視する立場をとる。一方で現実には流されず、異なる社会と「同じ家」に住める日が来ることを信じ、「寛容や我慢の精神」で行動する大切さを説く。

福祉国家などの分野でも、前例踏襲でない「解」を求める本や論文に、今年は何度か出会った。

テロが続くイラクなど目の前の現実には圧倒的で、現状認識はもはや眼界にきているのではないのか。刺激的な問題提起に度するたびに、そんな思いを強くした。

【岸俊光】

論壇

この1年

橋爪大三郎



「論壇」は崩壊したのだろうか。世論を導くオピニオン・リーダーがいなくなった。冷戦の崩壊も関係があるた

見当たらない大きな構想

派の足並みが乱れるかと思えば、社民党は没落、民主党は自由党と手を結ぶ。誰もが納得して行ける大物の政治家や言論人が見当たらない。かわりに今年は、イメージ

政治とマニフェストが話題となった。何を考えているのか。かわからないがTV映りのよい、小泉首相や石原都知事や安倍幹事長。現職議員もなかにみえないマニフェスト。責任ある個人の言論でなく、責任のはっきりしないイメージ

尾瀬の「時評2003」(中央公論1月号より連載)は、毎号楽しみにしていた。飯尾は眼前の変化を、長期トレンドや政治の原則に照らして的確に分析、今後の指針もくっきり描いてみせる。政界事情にも通じていて、いまいちばん信頼できる政治

作家猪瀬直樹の活躍も、特筆に値する『日本国の研究』以来、猪瀬は一貫して、税金の使途を洗い直すというブラグマティックで基本的な民主主義の原則にこだわってきた。行革断行評議会に続いて、道路関係四公団民営化推進委

宮台は、イラク戦争をめぐる混乱した国内世論に流されぬため、まず、アメリカの本質を見つめようとする。あわせて、日本のアイデンティティを問い直し、アジア主義というキーワードを提示する。社会システムに翻弄される者の生き方にも、ばら内在于きたキャリアを活かした、リアルな切り口だ。

とは言え今年の総合雑誌には、日本のトータルな将来像を描いたスケールの大きな論文がなかなか見当たらない。世交代の時期なのだろうか。この際だから、あわただしい毎月の注文原稿とは違った、構想力ある仕事を待ちたいと思う。

## 雑誌を読む

12月

- ◆イラク「対テロ」戦争に、不戦敗は許されない(池内恵)  
 「反米」の背後に期待感。情勢は対テロ戦争に転じた  
 ◆戦後イラクの治安と憲法制定の行方(マリナ・S・オッタウェイ)  
 戦闘終結と政治勢力間の合意、憲法制定の道筋を探れ  
 ◆かけ声だけでは準備もできない(小川和久)  
 初期に軍事組織は不可欠。復興支援参加の独自判断を  
 ◆スクープ対談「口先だけの自衛隊派遣」(小沢一郎、猪瀬直樹)  
 「軍の派遣」は最終手段。国民自ら考え、責任を持て

## イラク復興と自衛隊派遣

橋爪 大三郎 (東京工業大学教授・社会学)

小泉内閣が自衛隊のイラク派遣を決めた。年明け早々にも南東部サマワに向け、陸上自衛隊の部隊が出発する。

何のための派遣か、小泉首相の説明が不十分だ。だがマスコミの批判もワンパターン。その先を掘り下げて考える手がかりが、総合雑誌に見つからないだろうか。

▲日本のマスメディアでは、アメリカの占領統治は「うまくいかない」ことを前提にして報道や論評がなされている…。現状を冷静に見てみれば、うまくいっている部分もかなりある▼▲今回のイラク戦争に対する反対が最も少ない国とは、イラクである…▼(池内論文)。世論調査でみるとイラク国民の大多数は、アメリカがフ

セイン政権を打倒したことを歓迎している。大量破壊兵器の有無など気にしていない。▲望むのは速やかな治安回復と社会資本の整備だ▼(池内恵「本場の『イラク世論』の読み方」『フォーサイト』1月号)。フセイン政権の残党や、国境を越えて侵入した国際テロリ

## 問われる日本の国民益



池内 恵氏



小沢 一郎氏

占領統治に一定の評価  
同盟より当事者意識を

「論座」1月号)。しかし今のイラクは、統治能力を失った敗戦国であることを忘れてはならない。かなりの期間アメリカ軍が駐留しなければ、秩序の維持も新政府のたて上げもおぼつかない。自衛隊の派遣は、その活動を支持するといふ意味あいもある。

日米同盟のため、北朝鮮の脅威から身を守るためには派遣しかない。アメリカ追従でなく国連中心で、自主的に判断すべきだ。の不毛な応酬が繰り返されてきた。だが、別な見方も可能だ。▲対テロ戦争への参加は「同時多発テロは日本が掲げる平和主義への重大な挑戦」という位置づけが必要となる。…イラク戦争には日本の個別的自衛権の側面さえある。…「は

きぶりをよく分析している。こんな状況下で、なぜ自衛隊派遣なのか。▲同じ支援活動でも、NGOがやるほうがスピードの面でも費用対効果の面でも全然上です▼という指摘もある(大西健丞「有効なのは自衛隊よりNGO」

じめに米国との同盟関係ありき」とする議論は間違っているし、独立国家としてあってはならない▼。イラク復興は日本の責任でもあると考えて論点を整理すれば、▲日本国憲法第9条の精神、戦後日本が掲げてきた原理原則(平和主

あることを、ちゃんと国民に説明しておくべきだったのだ。▲正しいことなら…危険が危険でないかは、別のレベルの話ですよ。派遣そのものが正しいというのなら、それをどこまでも貫けばいい▼▲やる以上は本気でやるべきだ、といっているんです▼(小沢・猪瀬対談の小沢発言)。当事者意識のないままへっぴり腰で自衛隊を送っても、日米同盟にプラスにならない、が氏の持論だ。フセイン元大統領が拘束され、リビアが大量破壊兵器の廃棄に合意した。フセイン政権もひと息ついた。イラク戦争の正当性を傍証したかたちになり、北朝鮮六カ国協議にも追い風となりそう。残された議論はなにか。まず、自衛隊の派遣と憲法の関係。これは、条文解釈の問題ではない。憲法は、政府をどう組織するかの、明示された国民の意思である。自衛隊の存在を半世紀近く認めてきたのが国民の意思。これに合わせて条文を修正するかたちの憲法改正が日程にのぼろう。つぎに、日本の安全保障。イラク戦争は、ネオコンの自作自演ではない。突出した軍事力をもつアメリカが世界に開与する必然的なかたちである。単独行動主義のアメリカと国連に代表される国際社会とをどうバランスさせて日本の国益(国民益)と結びつけるか。新しい構想が求められる。第三に、政府が合理的に政策を立案し、国民に説明して同意を求める能力を高めること。政府は国民をもっと信頼し、国民は建設的な批判や対案を考える。▲とにかく一度政権を変えてみることにしよう、道が開けてくる▼(小沢発言)のではない。小泉政権の正念場がまもなく訪れる。